

作成日 2012/10/19
改訂日 2012/11/01

製品安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称	尿石とれ～る
製品コード	351840
会社名	コニシ株式会社
住所	大阪市中央区道修町1-7-1(北浜TNKビル)
担当部門	大阪研究所 研究開発第1部
電話番号(大阪営業推進部)	06-6228-2994
緊急連絡電話番号(夜間・休日)	090-7356-6462
推奨用途及び使用上の制限	小便器用洗浄剤

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	金属腐食性物質 区分1
健康に対する有害性	急性毒性(経口) 区分外 急性毒性(経皮) 区分外 皮膚腐食性/刺激性 区分1 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分1
環境に対する有害性	水生環境急性有害性 区分外 上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素 シンボル



注意喚起語 危険有害性情報

危険
H290 金属腐食のおそれ
H314 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
H318 重篤な眼の損傷

注意書き 安全対策

他の容器に移し替えないこと。(P234)
ミストを吸入しないこと。(P260)
取扱い後はよく手を洗うこと。(P264)

救急措置

保護眼鏡、保護面を着用すること。(P280)
飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
(P301+P330+P331)
皮膚又は髪に付着した場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぎ又は取り除くこと。皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。(P303+P361+P353)
吸入した場合、呼吸が困難な場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
皮膚に付着した場合、眼に入った場合、飲み込んだ場合、吸入した場合は、直ちに医師に連絡すること。(P310)
眼に入った場合、直ちに医師に連絡すること。(P310)
特別な処置が必要である。(P321)
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。(P363)

保管	物質被害を防止するため流出したものを吸収すること。(P390) 施錠して保管すること。(P405)
廃棄	耐腐食性内張りのある耐腐食性容器で保管すること。(P406) 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 混合物
一般名 洗剤

成分	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
有機酸	20~30%	—	非公開	非公開	非公開
水	70~80%	—	—	—	7732-18-5

分類に寄与する不純物及び安定化添加物 情報なし

4. 応急措置

吸入した場合	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、又は取り去ること。 多量の水と石鹸で洗うこと。 直ちに医師に連絡すること。
目に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 医師に連絡すること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。 直ちに医師に連絡すること。
応急措置をする者の保護	救助者は必要に応じて適切な保護具を着用する。

5. 火災時の措置

消火剤	大量の水、二酸化炭素、粉末消火剤、土
特有の消火方法	ガスの滞留しない場所で風上より消火し、漏洩防止処置を施す。
消火を行う者の保護	消火作業の際は、空気呼吸器を含め適切な防護服（耐熱性）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置	関係者以外の立入りを禁止する。 漏洩場所を換気する。 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 作業者は適切な保護具（『8. ばく露防止措置及び保護措置』の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
環境に対する注意事項	環境中に放出してはならない。 河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。 希釈水は汚染を引き起こすおそれがある。
回収・中和	少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。
封じ込め及び浄化方法・機材 二次災害の防止策	危険でなければ漏れを止める。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。 床面に残るとすべる危険性があるため、こまめに処理する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着

局所排気・全体換気
安全取扱い注意事項

用する。
『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
換気の良い場所で取り扱うこと。
眼、皮膚又は衣類に付けないこと。
取扱い後はよく手を洗いうがいをする。

接触回避

『10. 安定性及び反応性』を参照。

保管

技術的対策
混触危険物質
保管条件

特別に技術的対策は必要としない。
『10. 安定性及び反応性』を参照。
保管温度：2～40℃
日光から遮断すること。
容器を密閉して保管すること。
施錠して保管すること。
冷所、換気の良い場所で保管すること。
凍結厳禁。

容器包装材料

消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。
包装、容器の規制はないが密閉式の破損しないものに入れる。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度、許容濃度

	管理濃度(厚生労働省)	許容濃度(産衛学会)	ACGIH
有機酸	未設定	—	—

設備対策

換気をしながらご使用ください。
本製品を貯蔵又は使用する設備は、眼洗浄施設及び安全シャワーを設置したほうがよい。
局所排気装置を設置する。

保護具

呼吸器の保護具
手の保護具
眼の保護具
皮膚及び身体の保護具

換気が不十分な場合には、適当な呼吸器保護具を着用すること。
適切な保護手袋を着用すること。
適切な眼の保護具を着用すること。
長袖作業衣、必要に応じて保護服及び保護長靴を着用する。

衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态

形状 液体
色 無色透明
臭い 特異臭
pH 強酸性
沸点、初留点及び沸騰範囲 情報なし
引火点 引火せず
自然発火温度 情報なし

有機酸として

物理的状态
pH 0.1 ~ 1
融点／凝固点 -54℃
沸点、初留点及び沸騰範囲 沸点：135℃
引火点 引火せず
蒸気圧 4mbar (20℃)、22mbar (50℃)
比重(密度) 1.35 (25℃)

10. 安定性及び反応性

安定性
危険有害反応可能性

通常の条件下では安定である。
塩基性の化合物と反応し発熱する。

避けるべき条件	情報無し
混触危険物質	塩素系の洗剤と混ぜると有毒な塩素系のガスを発生する。 金属に対して腐食性の作用を及ぼす。
危険有害な分解生成物	燃焼などによりCO等の有毒ガスを発生する恐れがある。

1 1. 有害性情報

急性毒性	
経口	混合物の急性毒性推定値が2762mg/kgのため急性毒性(経口)一区分外とした。
経皮	混合物の急性毒性推定値が4207mg/kgのため急性毒性(経皮)一区分外とした。
吸入	データなしのため急性毒性(吸入)一分類できないとした。
皮膚腐食性/刺激性	混合物のpHが2以下のため皮膚腐食性/刺激性一区分1した。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	混合物のpHが2以下のため眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性一区分1した。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	データなしのため呼吸器感作性・皮膚感作性一分類できないとした。
生殖細胞変異原性	データなしのため生殖細胞変異原性一分類できないとした。
発がん性	データなしのため発がん性一分類できないとした。
生殖毒性	データなしのため生殖毒性一分類できないとした。
特定標的臓器毒性(単回暴露)	データなしのため特定標的臓器毒性(単回暴露)一分類できないとした。
特定標的臓器毒性(反復暴露)	データなしのため特定標的臓器毒性(反復暴露)一分類できないとした。
吸引性呼吸器有害性	データなしのため吸引性呼吸器有害性一分類できないとした。
有機酸として	
急性毒性	経口 LD50 ラット=649mg/kg 経皮 LD50 ウサギ>1000mg/kg 経皮 LD50 ウサギ<2000mg/kg (粉じん、ミスト)吸入 LC50 6 (H) ラット 1.3mg/L
皮膚腐食性/刺激性	腐食性(マウス)
生殖細胞変異原性	細菌類に対して変異原性を示さなかった。哺乳類を用いた試験では、変異原性を示さなかった。

1 2. 環境影響情報

環境に対する有害性	
水生環境急性有害性	混合物の成分濃度の合計が濃度限界以下のため水生環境急性有害性一区分外とした。
水生環境慢性有害性	データなしのため水生環境慢性有害性一分類できないとした。
生態毒性	情報なし
環境影響その他	漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取扱いに注意する。
有機酸として	
生態毒性	LC50 96 (H) ニジマス=73mg/L EC50 48 (H) 水生無脊椎動物=10 ~100mg/L EC50 72 (H) 緑藻(成長率)=12 ~24mg/L

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 特別管理産業廃棄物のため、廃棄においては特に「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の特別管理産業廃棄物処理基準に従うこと。 本製品の廃液は単独ではpHが2.0以下の廃酸に分類される(特別管理型産業廃棄物)。 排水は水質汚濁防止法及び地方自治体の排水基準に従う。
汚染容器及び包装	空容器類を廃棄するときは、内容物を完全に除去した後に産業廃棄物として処理または回収にまわす。

外箱、紙管など紙製容器・包装：回収または紙くずとして処理（単体で管理型産業廃棄物、付着成分がある場合も管理型産業廃棄物）。
 プラスチック製のボトル、チューブ、袋など：廃プラスチック類として処理（単独で安定型産業廃棄物、付着成分がある場合はその安定型・管理型分類に従う）。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報	I M Oの規定に従う。
UN No.	2586
Proper Shipping Name.	ARYLSULPHONIC ACIDS, LIQUID
Class	8
Packing Group	III
Marine Pollutant	Not applicable
航空規制情報	I C A O / I A T Aの規定に従う。
UN No.	2586
Proper Shipping Name.	ARYLSULPHONIC ACIDS, LIQUID
Class	8
Packing Group	III

国内規制

陸上規制情報	消防法、労働安全衛生法、毒物劇物取締法に該当する場合は、それぞれの該当法規に定められている運送方法に従うこと。
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
国連番号	2586
品名	アリールスルホン酸（液体）
クラス	8
容器等級	III
海洋汚染物質	非該当
航空規制情報	航空法の規定に従う。
国連番号	2586
品名	アリールスルホン酸（液体）
クラス	8
容器等級	III
特別安全対策	『7. 取扱い及び保管上の注意』の記載に従うこと。 容器の漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れの防止を確実にすること。
緊急時応急措置指針番号	153

15. 適用法令

消防法	非危険物
外国為替及び外国貿易法	輸出貿易管理令別表第1の16の項（2）
船舶安全法	腐食性物質（危規則第2，3条危険物告示別表第1）
航空法	腐食性物質（施行規則第194条危険物告示別表第1）
港則法	危険物・腐食性物質（法第21条2，則第12条、昭和54告示547別表二）

16. その他の情報

連絡先	『1. 化学物質等及び会社情報』に記載。
参考文献	J I S Z 7 2 5 0 - 2 0 0 5 化学物質安全データシート（MSDS） J I S Z 7 2 5 2 - 2 0 0 9 GHSに基づく化学物質等の分類方法 経済産業省 事業者向けGHS分類ガイダンス（平成21年3月） 社団法人 日本化学工業協会 GHS対応ガイドライン（平成20年10月） 日本ケミカルデータベース(株)MSDS作成システム「ロジスト」により作成。

その他

危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。

以前にお渡しした本製品の製品安全データシートをお持ちの方は破棄して下さい。

法改正や製品の改良によりMSDSを改訂する場合がありますので、作成・改訂日が2年以上たっている場合は最新版であるかどうか御確認下さい。

MSDSの伝達の経路：製品安全データシート（MSDS）は原則として次の経路で最終取扱事業者様へ伝達されます。恐れ入りますが、未入手の場合のMSDSの御請求や最新版の問い合わせは、販売ルートを通じてお申し出下さい。【メーカー⇒代理店⇒取扱い事業者】

前版からの変更点

「1. 化学物質等及び会社情報」に変更があります